

陳 情 文 書 表

受理番号・受理年月日及び件名	陳情第123号（3. 11. 22） 希望する全ての人がどんなときも安心して利用できる保育・学童保育・幼児教育施設の充実を求める陳情
陳 情 の 要 旨	1. 希望する全ての人が、希望する保育・学童保育・幼児教育施設を利用できるようにすること。 2. 保護者の負担軽減、正規保育士の増員・職員の処遇改善のために予算を大幅に増額すること。
陳 情 者 の 住 所 及 び 氏 名	神戸市中央区 神戸市保育運動連絡会 代表 有本 花野子 ほか1名
送 付 委 員 会	教育こども委員会

2021年11月22日

神戸市会議長

様

神戸市保育運動連絡会

代表 有本花野子

朝倉 ユミ

神戸市中央区

電話

希望するすべての人がどんな時も安心して利用できる

保育・学童保育・幼児教育施設の充実を求める陳情書

私たちは、この1年間、保育施設の訪問や門前などで市長宛の署名に取り組んできました。11月15日に、みなさんから寄せられた8,468筆の署名を提出し、担当課と懇談しました。

今、子育て世代は、非正規雇用、低賃金、長時間労働などによる生活・就労の不安定化、保育所不足による仕事と子育ての両立の難しさの上に、教育費などがのしかかっています。

保育所の待機児童問題はなぜ深刻化しているのでしょうか。それは認可保育所の新增設を基軸にせず、クラスの定員以上に詰め込む枠拡大や、2歳児迄を対象とし、3歳児以降は通えない小規模保育所での対応など、その場しのぎの待機児童解消政策が進んでいるからです。

神戸市でも小規模保育所が100ヶ所以上に増え続けているにもかかわらず、公立保育所や公立幼稚園は減り続けています。「家から近い」「将来通う小学校区内」「兄弟一緒」「就学前まで通える」「走り回れる園庭がある」等、誰もが望む当たり前の施設に入れない子どもがたくさんいます。コロナで経済がまわらない今、益々多くの子育て世帯が保育・学童保育等の入所を希望することになるでしょう。

コロナ禍で3密を防ぐどころか、狭い保育室に多くの子どもが詰め込まれているのが現状です。子どもの心身の発達を保障する為には、コロナや大災害が頻発する今こそ、面積や職員配置基準・子どもの集団規模を見直し、職員の処遇改善をして正規職員を増やす必要があります。保育・学童保育等の職員不足は深刻です。

私たちは、公的責任のもとで安心できる保育・教育環境や体制の充実を図り、災害時に地域の施設として住民にも対応できる公立保育所や公立幼稚園を活用し、すべての子どもが希望する認可施設に入所できるよう、以下のことを陳情します。

記

- ① 希望するすべての人が、希望する保育・学童保育・幼児教育施設を利用できるようにしてください。
- ② 保護者の負担軽減、正規保育士の増員・職員の処遇改善のために予算を大幅に増額してください。

以上